

「*Choju*」だより

株式会社エース・E&L
代表取締役社長 津田 博通

【難聴を改善し、認知症を予防】

「*Choju*」は、2016年11月の販売開始以来、様々なお客様のご意見や困っている問題を解決すべく対応して参りました。耳が遠い方の進行状況を拝見させていただく中で、耳の聴こえの進行を抑える方法が見えてきました。今回は93歳の元気なおじいさんのお話です

(元氣者のおじいさんも難聴には勝てない)

私の近所に住んでいるクリニック店のおじいさんは、93歳ですが元氣者で、毎日夕食後一杯飲みに仲間と集まって発散しているそうです。5月9日の午前中に孫の社長から電話があり、「爺さんの耳が聴こえないので、集音器を購入したい」と電話があり、夕方7時ごろに自宅にお伺いしました。このおじいさんは、2年ほど前入院したときに看護婦さんと話が出来ず、息子さんから集音器の試聴を依頼されましたが、本人はまだ耳は聞こえていると頑張り、使用しませんでした。大体、日本の男性は、耳が聞こえないことを恥と考え、周りの家族に迷惑をかけていることは、お構いなしの亭主閑白です。

(試聴の様様)

夕方7時におじいさんの部屋に入りました。初めにテレビのスイッチを入れてもらったところ、映画館の音量そのもので、最高音量で聴いている様でした。この音量は、さすがに高く、近所からクレームがあったそうです。幸い、このお家はクリニック店ですので、隣とは結構離れていて、クレームは少なかった様です。初めにテレビの音量を普通に下げ、おじいさんに「CHOJU」を装着させました。「なんでこんなものをつけるの」という不満の顔色がありありです。当然テレビの音声は聴こえていません。「CHOJU」のスイッチを入れ、音量を次第に上げたところ聴こえないテレビの音声は聴こえてきてニヤッと笑顔に変わりました。音質調整を行ったところ、テレビの音声を聴きながら家族とも会話ができました。元氣者のおじいさんの顔色が笑い一色になりました。「CHOJU」が、また難聴の方と家族を普通の生活に戻すことに成功しました。息子さんが、「おじいさんは金持だからお代は自分で払って」という言葉に、不満も言わず押し入れの中にある大きな袋から財布を取り出し、現金で支払ってくれました。ダンス預金の実態を見た思いです。

(その後の状況報告)

翌日の夜、クリニックを頼みに伺いました。息子さんがたまたまいて「昨日の夜は7時30分頃から10時ごろまで、食事中におじいさんが家族に一人で話続け、おばあちゃんともしばらくぶりの会話ができた」そうです。この後、また、自転車に乗って飲み会に出かけたようです。

翌日あった若い従業員がおじいさんに「おはようー」と声をかけられたそうで大変驚いていました。

93歳でも会話ができれば、認知症を防げます。このおじいさんは、間違いなく100歳を超えそうです。今一番怖い問題は、癌などの病気以上に、認知症になり徘徊する老人の介護です。介護する家族の方が、先に倒れてしまいます。認知症を防ぐため難聴を改善することが重要です。